

第 19 回 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 廃炉等技術委員会 議事要旨

日 時 2016 年 11 月 18 日(金)13:00～15:00

場 所 原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDF) 第二大会議室

1. TMI-2 の経験と 1F の違いについて

NDF 事務局より、TMI-2 の経験と 1F の違いについて、日米の関係者が集まって行った TMI-2 Knowledge Transfer and Relevance to Fukushima Meeting にて知り得た情報も含め、燃料デブリ取り出しを中心に説明した。TMI-2 の場合には、政府や事業者、研究機関だけでなく規制当局も含めた主要組織が One Team としてまとめ、役割分担を決めて燃料デブリ取り出しを進めた。また、首長を含む地域住民も意思決定プロセスに参加できる場を設けることで、社会とのコミュニケーションも適切に行っていた。なお、帰還困難地域等が残る福島第一原子力発電所の事故とは相違点が多々あるが、彼らの取組の在り方には、福島における今後の取組の設計に際して技術的にも社会的にも参考にすべき点が多い。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下の通り。

- TMI-2 の場合には、様々な研究開発が行われつつも、人間が操作し原理的には確実な技術での燃料デブリ取り出しも進められた。今の技術力は当時に比べ遥かに進んでいると考えるが、他方で福島第一の場合、取り出し作業環境は一段と困難であるから、多様な取組のあり方を探索・研究・評価して、確実性の高い技術の候補を絞り込み、現場の状況を踏まえたモックアップによって使えることを十分に確認して、適用していくべきである。
- TMI-2 を進めた One Team という体制は見習うべきである。福島第一の場合にこの体制を実現していくためには政府と東京電力の一体感を生み出すことが非常に重要であると考え。日本において組織がチームを作って協力していく際には、組織・専門の出身が違とうまくいかないことがある。しかし、一体感が見られない所があると、そのことがリスク要因となり得るため、海外の経験・アドバイスを適切に取り入れていただきたい。
- 色々な組織が集って一つの事業を行っていく際には、一人のリーダーがそれに覚悟をもって取り組み、全体を引っ張ることが必須である。「和」を重んじる日本においては、リーダーに構成組織のそれぞれや一人一人の参加者に能力を発揮させることのできる人間を任命できているかが重要である。

海外特別委員からの主な意見は以下の通り。

- 適正な人材が適切な権限を持ち全体の取組について意思決定できる組織を現場に持つことが極めて重要である。TMI-2 の場合に米国エネルギー省や米国電力研究所と現場のオペレーターがその場で直接連携・協力し、なすべきを成し遂げたことは非常に重要な経験であり、参考にしてもらいたい。
- 成功裏に廃炉を達成することを目指して主要機関が協力しあう One Team 体制を敷ければ、実質的な進捗が得られると考える。なお、これにより参加機関の独立性がなくなるということでは決してない。規制当局はチームにあっても独立して使命を果たすのである。速やかに効果的なリスク低減を実現す

るという共通の目標に向けて当局が連携に資源を投じ、情報のやり取りを加速し、業務や決定を迅速に行ったことが重要である。

- これらの経験からの教訓を1つ示すとすれば、福島第一原子力発電所においては1～3号機の現状を理解することに注力が必要ということである。現状を適切に把握しなければ、戦略を立てていくことが困難となり得る。

2. リスクコミュニケーションの在り方について

NDF 事務局より、リスクコミュニケーションの在り方について、基本的な考え方及びこれまでの取組について説明した。NDF として、この取り組みの重要性を認識しつつ、これまで福島県で実施される会議や国際的なフォーラムを通じた情報発信、本年度取りまとめた戦略プラン 2016 についての主要な関係者・自治体や報道関係者への紹介等を行ってきたが、技術戦略プラン 2016 公表時の経緯及び反省を踏まえると、今後より一層積極的に受け手の立場に立ってコミュニケーション活動を進めていく必要があると考えている旨を示した。その上で当面の取組として、国際的なフォーラムの継続や地元住民の方々への直接的な説明・対話等進める予定であること、また地域住民の皆様の目線や海外の取組事例等、重要と考えられるいくつかの論点について紹介した。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下の通り。

- 長期にわたる廃炉作業を進めていくに際して地域社会とどう共生していくのがよいのか考えるべき。作業の結果ではなくそのプロセスの中で、そこに住む人々の生活の質をどう確保していくのか、一方的な説明ではなく地域の人々が何を知りたいのかを理解し、説明することが必須である。またそれには技術とは違う、コミュニケーションのスキルが非常に重要である。
- TMI-2 と 1F の技術的・数値的な違いをきちんと把握し、それが危険度のどの程度の違いを意味するのかをきちんと説明する、情報を明確にすることがわかりやすさを増すことにつながるかもしれないので、トライすることを期待する。

海外特別委員からの主な意見は以下の通り。

- 実際にコミュニケーションを行う人材は非常に重要であり、適切な人を選ぶ必要がある。また発信する情報の一般への届き方についても理解できる適切な仕組みを構築するべきである。すなわち、プレスリリースを十分に練り上げるべく、例えばコミュニケーションの専門家に読んでもらって意見をもらうことが重要である。プレスリリース文はエンジニアが書くだけではなく、どう取り上げてもらうかを考慮した出し方とする必要があるからである。

3. その他議題

NDF 事務局より、以下の事項等について説明があった。

- NDF 廃炉支援部門の最近の活動
- 今後の廃炉等技術委員会等のスケジュール

以 上